

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
ホンダ テクニカル カレッジ 関西	昭和56年2月28日	五月女 浩	〒 589-0012 (住所) 大阪府大阪狭山市東栄黄木2丁目1937-1 (電話) 072-366-9011				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 ホンダ学園	昭和55年3月17日	高倉 記行	〒 356-8567 (住所) 埼玉県ふじみ野市鶴ヶ岡5-2-2 (電話) 049-264-4666				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	一級自動車研究開発学科 (3・4年次自動車研究開発コース)	-	平成18(2006)年度	令和2(2020)年度		
学科の目的	学校教育法及び私立学校法の規定に基づき、高度の一般教育と実践的専門的な技術及び理論を習得させ、モビリティ領域で幅広く活躍できる健全有意な人材を育成する事を目的とする。						
学科の特徴 (取得可能な資格、中退率等)	国土交通省の定める自動車整備士一種養成施設基準に伴い、学科及び実習授業を行うと共に更なる実践力育成の為に企業実習を実施している。 2年次修了時に国家二級整備士受験、その後は自動車開発技術者として求められる技術や知識の修得を図る。 取得可能な資格：国家二級ガソリン自動車整備士・二級ジーゼル自動車整備士取得（2年生修了時） 中退率：3.9%（令和5年度）						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 4,339 単位時間	1,320 単位時間	201 単位時間	2,362 単位時間	0 単位時間	456 単位時間
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数 (生徒実員の内数) (B)	留学生割合(B/A)				
400人 1-2年次200人 3-4年次200人 ※3-4年次コース別内訳 一級：100人 開発：100人	243人 1-2年次130人 3-4年次113人 ※3-4年次コース別内訳 一級：63人 開発：50人	4人 1-2年次2人 3-4年次2人 ※3-4年次コース別内訳 一級：0人 開発：2人	2%				
就職等の状況	■卒業生数 (C)		23	人			
	■就職希望者数 (D)		23	人			
	■就職者数 (E)		23	人			
	■地元就職者数 (F)		1	人			
	■就職率 (E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		4	%			
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		100	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等		自動車メーカー、部品メーカー、自動車関連企業					
(令和5年度卒業生)							
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： ※有の場合、例えば以下について任意記載		無		評価結果を掲載した ホームページURL		
当該学科の ホームページ URL	https://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/departments/ikkyu_dev						
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A：単位時間による算定)						
	総授業時数		4,339 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		131 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間				
	うち必修授業時数		4,399 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		131 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		50 単位時間				
教員の属性 (専任教員につい て記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等において その担当する教育等に従事した者であって、当該専門 課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算し て六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		2人				
	計		5人				
上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度 の実務の能力を有する者を想定）の数		4人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
 企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行うことを基本に展開を図る。
 企業実習などを通じ、学校では学びきれない実践力を養う。合わせて、就職先企業への企業CS調査を実施し、企業が求める人材要素や教育弱点領域の把握と授業への反映を行うものとする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長は当年度の教育課程編成を本校関係者により組織した教育課程編成委員会（以下「編成委員会」という。）に報告し、意見を聴取し、その意見を尊重し、教育活動に活用する。

① カリキュラムの改善のため委員会を設置	② カリキュラムの改善への意見を提案	③ 組織としてカリキュラムの改善を検討・決定	④ 決定内容に応じてカリキュラムを改善	⑤ 実施結果を検証
----------------------	--------------------	------------------------	---------------------	-----------

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
瀧本 佳史	一般社団法人大阪府自動車整備振興会	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	①
水口 和明 <small>(一級自動車研究開発学科一級自動車整備士コース担当)</small>	株式会社ホンダモビリティ近畿	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	③
河井 政昭 (自動車整備科担当)	株式会社ホンダ泉州販売	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	③
當麻 麻人 (自動車整備留学生科担当)	株式会社ホンダモビリティ中部	R4年4月1日～R6年3月31日	③
杉浦 智弥 (自動車整備留学生科担当)	株式会社ホンダモビリティ中部	R6年4月1日～R8年3月31日	③
足立 光康 <small>(一級自動車研究開発学科自動車研究開発コース担当)</small>	株式会社アビスト	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	-
五月女 浩 (学校側委員)	ホンダテクニカルカレッジ関西 校長	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	-
西山 忠臣 (学校側委員)	ホンダテクニカルカレッジ関西 教頭	R4年4月1日～R6年3月31日	-
田中 直樹 (学校側委員)	ホンダテクニカルカレッジ関西 教頭	R6年4月1日～R8年3月31日	-
寺尾 典篤 (学校側委員)	ホンダテクニカルカレッジ関西 教務部 部長	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	-
白石 拓三 (学校側委員)	ホンダテクニカルカレッジ関西 自動車整備科 科長	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	-
後藤 俊介 (学校側委員)	ホンダテクニカルカレッジ関西 自動車整備留学生科 科長	R5年4月1日～R7年3月31日	-
神通 邦彦 (学校側委員)	ホンダテクニカルカレッジ関西 一級自動車研究開発学科 科長	R5年4月1日～R7年3月31日	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、11月)

(開催日時(実績))

令和5年度 第1回 令和5年 6月16日 13時～16時

第2回 令和5年11月10日 13時～16時

令和6年度 第1回 令和6年 6月21日 13時～16時

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①カリキュラムについて 改善案は特になし

②教育活動について コロナの5類分類を受け、以前の教育活動にいかに戻していくかを共有

③新規実習車両や教材購入、学習環境整備等について
特にご意見等はなく、計画通り推進

④今後の検討課題について 電動化教育に向けてどの様に対応するか検討を始める事を共有

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車開発技術者を目指す本コースの学生に対して、実際に自動車の研究開発を行っている株式会社本田技術研究所デザインセンターの担当者の協力を得て、技術者に求められるものの考え方や姿勢、学ぶべき技術や知識を認識させることで自らの学習の目標を築く。その一つとして自動車の開発におけるデザインの位置付けと、クレイモデラーの仕事の役割と求められる技術を理解させる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

提携企業より派遣された講師により校内模擬現場実習を実施する。(対象科目：実践自動車整備)

車両製作科目においてはデザイン講義とクレイ講習を実施する(対象科目：加工技術)

デザイン講義： パッケージ&生技性とスタイリングの両立を考える

クレイ講習： 自動車開発の現場(デザインスタジオ)で行われている事と同じプロセスで艱装品を造形
・デザインする

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実践自動車整備	社会において実施されている実践的な整備内容をしり、その手法等を理解習得する。 【校内模擬企業実習】	(株)ホンダモビリティ近畿
加工技術	創作したデザインを具現化する為にクレイモデリング・FRP製作を学ぶ。安全工学については製造現場における人命や健康維持など社会的平安を守る為の知識を学ぶ。加工実習に関しては旋盤やフライス盤の使用方法及び加工する際の注意事項を学ぶ。	(株)本田技術研究所 デザインセンター

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学則細則より、教員は、校長の指示により、その専門分野における実務能力の向上及び指導力の修得・向上のために必要な研修を定期的に受けるものとする。

研修規定に則り、学校運営に必要な知識の向上、技術、・技能の習得、授業方法の改善、学生指導の方法、募集に関することなど、幅広い能力の向上を図るため、教員の業務経験や能力、担当科目、授業以外の担当業務等に応じて研修を行う。

「専攻分野における実務に関する知識」においては企業等と連携して技能等の修得・向上を図ると共に、「指導力」においてはその修得・向上を目的とした研修を受講し研鑽することとする。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 新機種新製品技術研修 (N-BOX)	連携企業等： 本田技研工業 (株)
期間： 令和5年10月	対象： 全員
内容 新機種におけるサービス技術研修	
研修名： 新機種新製品技術研修 (Accord)	連携企業等： 本田技研工業 (株)
期間： 令和6年1月	対象： 全員
内容 新機種におけるサービス技術研修	
研修名： 新機種新製品技術研修 (WR-V)	連携企業等： 本田技研工業 (株)
期間： 令和6年2月	対象： 全員
内容 新機種におけるサービス技術研修	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： ヒューマンスキル研修	連携企業等： 本田技研工業株式会社
期間： 令和5年8月	対象： 1名
内容 学生指導に必要なコミュニケーションスキルとコーチングスキルの修得	

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 新機種新製品技術研修	連携企業等： 本田技研工業 (株)
期間： 令和6年6月	対象： 全員
内容 新機種におけるサービス技術研修	
研修名： 新機種技術研修	連携企業等： 大阪府自動車整備振興会
期間： 令和6年6月～10月	対象： 1名～2名
内容 他メーカー機種サービス技術研修	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 自殺防止セミナー	連携企業等： 自殺防止センター
期間： 令和6年4月～6月	対象： 全員
内容 大学生等の自殺防止を図る為のセミナー	
研修名： 教員指導力研修	連携企業等： 大阪府専修学校各種学校連合会
期間： 令和6年7月～12月	対象： 1名～2名
内容 教員に必要な各種指導力向上のための研修	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 学則に照らし建学の精神・育成方針に沿った年度毎の重点施策、学生生徒の状況、教育課程・学習指導、教員の状況について自己評価表を用い、自己評価を実施し、学外からの適正な評価を受けるため、学外者を含んだ学校関係者評価委員会を組織し、実施した自己評価を検証する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の志・学園の目的・教育方針 年度における重点課題
(2) 学校運営	3ヵ年計画及び方針と目標(重点課題)
(3) 教育活動	教務部方針及び重点課題対応施策
(4) 学修成果	就職内定率・資格取得率・退学/休学率・社会的な活躍及び評価
(5) 学生支援	進路指導・学生相談・経済的支援・学生の健康管理・課外活動・保護者との連携・卒業生への支援
(6) 教育環境	国土交通省における一種養成施設設置基準
(7) 学生の受入れ募集	募集活動目標と施策
(8) 財務	事業計画・主要財務数値・予算書・監査計画書
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・第一種養成施設指定基準
(10) 社会貢献・地域貢献	環境への取組み・社会貢献事業に対する取組み(地域清掃)
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 令和4年度の自己点検・評価報告に対し評価委員会から、学生・保護者から選ばれる学園という大きな課題に対して、学生確保に向けた取組み、退学者数の低減の取組み、新技術対応を踏まえた授業内容の見直し、国家資格取得の更なる強化等の御提言を頂き、令和5年度も引き続き重点施策として取り組んできました。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
木村 一年	本田技研工業株式会社	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	企業等委員
水口 和明	株式会社ホンダモビリティ近畿	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	企業等委員
河井 政昭	株式会社ホンダ泉州販売	R4年4月1日～R6年3月31日 R6年4月1日～R8年3月31日	企業等委員
山本 敦	ホンダ テクニカル カレッジ 関西 後援会 会長	R5年4月1日～R6年3月31日	P T A
松本 貴幸	ホンダ テクニカル カレッジ 関西 後援会 会長	R6年4月1日～R7年3月31日	P T A

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())
 URL : https://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/about/disclosure/
 公表時期 : 令和6年7月2日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専門学校は公的な教育期間として、学校教育法に基づき教育活動や学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとされている。我々が行っている実践的な職業教育・専門技術教育に対する社会的な理解、評価を促進し、学習者の適切な学習機会選択に資するためにも情報提供と社会による説明責任を果たすことは重要である。また情報提供による関係業界との連携・協力は、教育の質の確保と向上に繋がると考える。

以上の観点から、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿い、必須の9項目を網羅し、分かり易く学校のホームページに掲載する。掲載にあたっては個人情報の取扱いに十分留意し、公正、正確な情報を適時・適切に提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の志、学園の目的、育成方針、沿革、安全・保健対策計画
(2) 各学科等の教育	入学・卒業情報、カリキュラム、資格・国家試験結果、進路
(3) 教職員	教職員数、組織情報、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業との連携による取組み状況、就職支援への取り組み
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動（同好会・ボランティア活動）
(6) 学生の生活支援	学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	納付金情報、奨学金制度
(8) 学校の財務	主要財務数値
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価、改善施策
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※ (10) 及び (11) については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())

URL : https://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/about/disclosure/

公表時期 : 令和6年7月2日

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)														
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
							講義	演習	実験・実習	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択												
1	○		基礎自動車工学	これから学ぶにあたり、基本的な自動車とは何かについて理解する整備士にかかわる工学的な基本事項理解する	1前	23	○			○		○		
2	○		エンジン系構造	原動機及びエンジン系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する	1前	63	○			○		○		
3	○		シャシ系構造	車体各部及び車体系電装品、動力伝達装置の作動原理及び基本構造、名称等を理解習得する	1前	63	○			○		○		
4	○		自動車総論	自動車に関する物理・数学、環境、内燃機関等基礎概論を理解習得する	1通	25	○			○		○		
5	○		図面・材料	自動車を取り扱う上で必要な材料の種類、製法、特徴、用途及び図面に関する一般知識について理解習得する	1通	19	○			○		○		
6	○		エンジン系整備	エンジン及びエンジン系電装品の点検整備、および電子制御燃料噴射装置の基礎を学ぶ	1後	37	○			○		○		
7	○		シャシ系整備	車体、動力伝達、変速装置、走行装置、懸架装置、および灯火類などのシャシ系電気装置の点検整備を学ぶ	1後	37	○			○		○		
8	○		二輪車整備	二輪車特有の各種装置の点検整備、および調整方法を学ぶ	1後	36	○			○		○		
9	○		整備作業・測定・検査・機器	整備作業・測定・検査に関して、その目的を理解し、基本的な作業の仕方や正しい使用方法などを理解する	1通	34	○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実技・実習	校内	校外	専任	兼任	
10	○			エンジン系 応用	エンジン総論バルブ機構、可変バルブ開閉機構、ロータリエンジン、燃料装置、LPG、過給機など、エンジンの構造機能（応用編）及び、燃料油脂などについて理解習得する	2前	37	○			○		○		
11	○			シャシ系 応用	シャシ性能総論、AT、油圧PS、アライメント要素、Mクラッチ、トルクコンバータ、サスペンション性能、ABS、TCS等の機能構造作動などについて理解習得する	2前	37	○			○		○		
12	○			ジーゼル 自動車	ジーゼル自動車全般についての構造作動機能・故障診断と整備を習得する	2後	27	○			○		○		
13	○			総合自動車 工学	国家二級試験に合格するために、自動車工学の復習を行い、理解度を深める	2後	28	○			○		○		
14	○			自動車 総論	走行性能、プラネタリギヤ、エンジン性能、熱効率と仕事率、電気効率、オシロスコープ波形、軸重計算、制動性能 等	2前	27	○			○		○		
15	○			故障原因 探求	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得する一級資格につながる電子制御システムの診断手法の基本を理解習得する整備に関する制度等の基本的な事項を理解する	2後	27	○			○		○		
16	○			総合自動車 整備	自動車検査業務や点検整備など、社会において実施されている実践的な整備内容をしり、その手法等を理解習得する	2後	54	○			○		○		
17	○			自動車 検査	自動車の点検車検要領・診断機器・大型自動車・検査機器取り扱いなど自動車の検査や各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する	2前	23	○			○		○		
18	○			自動車 法規	法規道路運送車両法、道路運送車両の保安基準を学ぶことを通じて、二級自動車整備士としての知識と技術を習得して正しい法規の運用能力を身に付ける	2後	23	○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実技・実習	校内	校外	専任	兼任	
19	○			工作作業	整備に必要な機械加工技術を理解習得するとともに、工作機器の基本的な取り扱いを覚える	1前	23			○	○		○		
20	○			基本計測	計測作業の正しい方法を理解習得する	1通	45			○	○		○		
21	○			実エンジン系構造	エンジン本体・潤滑・冷却・燃料装置・吸排気装置及びエンジン系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能と故障整備概要を理解習得する	1前	153			○	○		○		
22	○			実シャシ系構造	クラッチ・AT/MT・サス・ブレーキ・ステアリング・ボディ及びシャシ系電装品の分解組立作業等を通じ構造機能作動と故障整備概要を理解習得する	1前	153			○	○		○		
23	○			実エンジン系整備	前期エンジン系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する	1後	109			○	○		○		
24	○			実シャシ系整備	前期シャシ系構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する	1後	109			○	○		○		
25	○			実二輪車整備	前期二輪車構造実習にて得た分解・組立方法を基に作業を行い、整備に必要な点検・調整方法を理解習得する	1後	86			○	○		○		
26	○			実エンジン系応用	V6エンジン・可変バルブ機構、ロータリ、LPG燃料装置、過給機、ラッシュアジャスタなどエンジン新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する	2前	106			○	○		○		
27	○			実シャシ系応用	オートマチックトランスミッション、パワーステアリング、アライメントなどシャシ新機構・応用機構の構造機能等を分解組立作業等を通じ理解習得する	2前	106			○	○		○		

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
28	○			実践 自動車整備	社会において実施されている実践的な整備内容をしり、その手法等を理解習得する 【校内模擬企業実習】	2 前	50				○	○		○		○
29	○			実自動車 検査	自動車の検査について実習作業を通じ理解習得する 各検査機器の活用と関係法令・基準等について理解する	2 前	57				○	○		○		
30	○			実ジーゼル 自動車	ジーゼル自動車全般についての構造作動機能・故障 診断と整備を習得する	2 後	50				○	○		○		
31	○			実故障原因 探求	機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理 解習得実践する電子制御系統の診断手法の基本を理 解習得する	2 後	50				○	○		○		
32	○			総合 自動車整備	自動車検査業務や点検整備など、社会において実施 されている実践的な整備内容などを実践し、その手 法等を理解習得する	2 後	100				○	○		○		
33	○			安全運転	安全運転に関する心構えを認識し、今後の運転等の 意識改革を図るとともに事故減少に取り組む	1 2 通	36		○		△	○	△	○		
34	○			接客実務	サービスにおける接客実務の理解の幅を広げ、実践 できるようにする (SE3級)	1 2 前	36		○			○		○		
35	○			特別講座	就職先進路別グループに分かれ、国家試験合格に向 けた最終実力養成と、即戦力となりうる実践的スキ ルの習得、向上を目指し実力養成を図る	2 後	108		△		○	○		○		
36	○			新機構・ 次世代技術	車両技術領域及び診断作業等領域における新デバイ ス・新システム等の構造機能等の理解習得を図る	1 2 後	21		○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実技・実習	校内	校外	専任	兼任	
37	○			新機構・次世代技術	車両技術領域及び診断作業等領域における新デバイス・新システム等の構造機能、整備要領等の理解習得を図る	1 2 後	75			○	○		○		
38	○			工業物理	工業力学は機械工学系の基礎となる重要な科目である基礎物理学への理解を深めることで、自動車の様々な運動を理解する	3 前	32			○		○		○	
39	○			機械材料	機械の機能を考え、より良い性能の機械を設計・製作するために、最適な材料の選択および加工が行えるよう金属材料・非金属材料の特性を学ぶ	3 前	16			○		○		○	
40	○			機械材料	機械の機能を考え、より良い性能の機械を設計・製作するために、最適な材料の選択および加工が行えるよう金属材料・非金属材料の特性を学ぶ	4 前	16			○		○		○	
41	○			電気工学	デジタル／アナログ通信、AV機器、コンピュータ、電源装置の原理およびその基本構成について学習し、電気電子分野の基礎知識を身に着ける	3 前	32			○		○		○	
42	○			電気工学	デジタル／アナログ通信、AV機器、コンピュータ、電源装置の原理およびその基本構成について学習し、電気電子分野の基礎知識を身に着ける	4 前	16			○		○		○	
43	○			機械設計技術	機械製品の設計に際して必要な考え方や手順を学ぶ工学である機械設計にかかせない要素についてその設計方法を学び、簡単な機械の設計が出来るようになる	3 前	32			○		○		○	
44	○			材料力学	応力の概念を理解し、棒や梁の強度設計（引張・圧縮、曲げ、捩じり）の考え方を説明し、簡単な問題において応力と変形量を求める技術獲得を主眼とする	3 前	32			○		○		○	
45	○			シャシ構造	タイヤの特性について学び、次にタイヤを生かすサスペンションをクルマの挙動を絡めて研究する曲がる・止まるのステアリングとブレーキについてその仕組みと作用を学ぶ	3 前	16			○		○		○	

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
46	○			製造技術	機械部品の各種製造における 製法・機械を学ぶことで、品質の高い製品を早く安く提供できる基礎知識の習得を目指す	3 後	48		○			○		○		
47	○			製造技術	機械部品の各種製造における 製法・機械を学ぶことで、品質の高い製品を早く安く提供できる基礎知識の習得を目指す	4 後	48		○			○		○		
48	○			制御工学	機械を精度良く運動させ、エネルギーを有効な仕事に確実に変換するためには、機械の制御が必要である自動制御の基本について理解を深め、その適用例について学ぶ	4 前	32		○			○		○		
49	○			情報処理	コンピュータの特性とコンピュータによる情報処理の特徴、社会で利用されている代表的なコンピュータ応用の種類や特性などについて理解する	4 後	16			○		○		○		
50	○			流体力学	流体の基礎について学び、自動車で利用される流体（空気、水、オイル、燃料）への理解を深める	4 後	32		○			○		○		
51	○			車体構造	ボディの構成及び車体付属部品について学習し、理解を深めることを目標とする	3 前	16		○			○		○		
52	○			自動車 新技術	自動車はあらゆる技術の成果が集積され、出来上がっているその新技術について調査・発表し、討論して理解を深める	4 後	32		○			○		○		
53	○			人間工学	人間とその生活環境との関係を人間の形態学的・生理学的・心理学的・行動学的側面から研究して、人間に適した製品・生活環境を設計する学問である	3 前	16		○			○		○		
54	○			環境工学	自動車が環境に与える影響、自動車産業の現状、環境技術を学び、その将来を考え、時代と共に変化する世界の認識と関連する法規について学び、正確に理解する	4 後	32		○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
55	○			生産工学	生産管理の基本を理解し、役割、手法、必要性を学ぶ製品安全と製品品質の基本的な内容を製造物責任の観点から学ぶことで、安全性確保の考え方を身につける	4 通	64		○			○		○		
56	○			生産コスト	製品のコストの成り立ちとプレス製品のコスト算出を学ぶことでコストの理解を深める	4 通	48		○			○		○		
57	○			設計技術	CADを用いて、3Dモデリングおよび図面作成の操作法を学習するまた、コンピュータシミュレーションの流れ、問題点、及び計算結果の効率的な使い方を学習する	3 通	73			○		○		○		
58	○			加工技術	創作したデザインを具現化する為にクレイモデリング・FRP製作を学ぶ安全工学については製造現場における人命や健康維持など社会的平安を守る為の知識を学ぶ加工実習に関しては旋盤やフライス盤の使用方法及び加工する際の注意事項を学ぶ	3 通	81				○	○		○		○
59	○			制御技術	車両運動モデルの作成を通じて、MatLab&Simlinkのモデルを製作&実行できるようになる	3 前	40			○		○		○		
60	○			制御技術	モデルと実際の振る舞い検証を通じて、制御パラメータの同定を理解する 車両シミュレーションを使い、先進運転支援システムた自動運転のメカニズムを理解する	4 通	162				○	○		○		
61	○			計測技術	単位および次元解析、計測結果の整理、種々の計測法について学んでいく「ひずみゲージ」応力計測、マイクロピッカース試験機硬度計測、表面粗さ計表面粗さ測を学ぶPCベースの計測・解析ソフトウェアL a b V I E Wを使った計測手法を学ぶ	3 後	48				○	○		○		
62	○			計測技術	パソコンベースの計測解析ソフトLabVIEWの基本操作から、実際の計測まで簡単な演習を実践することで学ぶ 振動計測の基本を学ぶ	4 前	32				○	○		○		
63	○			車両製作	車両を実際に製作する事により、車の主要構造についての理解を深める車両開発の計画と実践を経験することにより、PDCAサイクルの活用、開発の流れを理解する	3 通	316				○	○		○		

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	校 内	校 外	専 任	兼 任	
64	○			車両製作	試験結果から解析、課題解決の手法を学び、成果をまとめて報告するまでの流れを実践する多くの失敗や課題解決の経験を積む事により、技術者としての基本的な知識や行動指針を身につける	4 通	324			○	○			○		
65	○			試験研究	作業において重要な考え方を理解し、計測した試験結果をまとめて報告書を作成する流れを習得する	3 通	186			○	○			○		
66	○			試験研究	失敗しないための準備の重要性、計測対象の求められる精度向上に向けての注意点を理解する	4 後	32			○	○			○		
67	○			課題研究	技術者としてテーマを推進、PDCAを実践しまとめ&報告を行うことで技術レベルの向上を図る	4 後	162			○	○	○		○		
68	○			企業実習	企業インターンシップを通じて、就職意識の向上、企業、就労に対する理解を深める	3 後	64			○	○	○		○		
69	○			英語	技術者として英語圏で活躍できることを目標に、その為の基本的なビジネス英語力の習得に力点を置き、基礎から学ぶ	3 通	64		○		○				○	
70	○			英語	技術者として英語圏で活躍できることを目標に、ディベート、プレゼンテーションなどの実践的な英語力を習得する	4 通	64		○		○				○	
合計						70	科目	4342 単位 (単位時間)								

(工業専門課程 一級自動車研究開発学科 自動車研究開発コース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 卒業認定会議の結果全教育科目の修了が認定され、素行・学習意欲等が良好と認められた者には卒業を認定する。	1 学年の学期区分	前後 期
履修方法： 学生個人別出欠席を調査し、これを記録するものとする。 各教科の履修効果を評価するために、所定の試験を行なうものとする。 必要に応じ、放課後又は休日、若しくは休暇中に補講を行なうことがある	1 学期の授業期間	26 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。